



消 防 章

愛知連盟尾張北地区

	考 査 細 目	考査方法	考査のポイント	考査合格年月日	認 印
1	一般家庭における火災の原因を3つ以上あげ、自宅の火元を点検し、点検漏れになりがちな所について説明すること。	口述または記述	自宅の略図に火元を図示させるのもよい。(場所・器具)火災の原因は、地域によって多少異なる。		
2	自宅にある防火用具と消火器材の使用法一覧表を提出すること。	作品(使用法)の提出	作品の内容について説明させるのもよい。 消火の3原則(除去・窒息・冷却)と用具、効果、対象物との関係。		
3	自宅、隊本部、自校およびその付近に火災が起こった場合、正確に消防署へ火災通報が急報できること。	口述または記述	電話、火災報知器、有線放送、かけつけ		
4	自宅を中心に半径100m以内にある消火栓、あるいは消火に利用できる池、川を地図上に記載すること。	作品(略地の提出 実 演 (火災通報)	(火災報知器は年々減少傾向にあることに注意する。)		
5	山火事の多い季節(月名)とその原因を知り、山火事の消し方について説明すること。	口述または記述	林野火災の原因、多発時期は地域によって多少異なる。		
6	次のスカウト用具が出火または消火時、役立つ場合を説明すること。 ロープ、おのまたはなた、グランドシート、フライシートに毛布、笛、布バケツ	実 演			
7	消防署又は経験者の協力を得て、小型消火器による消火訓練の経験があること。	報告書の提出	報告書には隊長の証印を要する。		
8	昼夜問わず、出火または延焼の場合に、いかに安全に家人を退却させ、貴重品を搬出するかの方法について、その計画を立案提出すること。	作品(計画)の提出	作品の内容について説明させるのもよい。 事前の備えと避難方法(複数) 昼夜と夜間を区分する。 通報、消火、物品の搬出の分担など。		
9	次の場合を想定し、自己の安全と救出方法を述べ実演すること。 (1) 火災または煙に包まれた家の中から脱出する方法 (2) 幼老病者の救出法 (3) 衣服に火がついた者を救う法 (4) 火煙中から失神した者を救い出す方法	実 演	煙のひろがり方についての理解(CO中毒)		
10	地震等の災害時の火元の始末について説明できること。	口述または記述	地震がはじまった時と最初の大ゆれが収まった時の対応。		

参考資料 消防庁「消防白書」

考査細目のすべてに合格したことを証明します。

年 月 日

技能章考査員

印